

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174300327		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム めぐみ野		
所在地	北海道釧路郡釧路町曙1丁目2番地14 (電話) 0154-37-8276		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月30日

## 【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	17人
職員数	16人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.86人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	10,500~13,650円	
敷金	(有) 80,000円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) 80,000円	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円	44,100円/月

### (4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧路中央脳神経外科 島津歯科医院 釧路町訪問看護ステーション
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームでは住民対象の「認知症サポーター養成研修」に協力をしたり、「傾聴ボランティア」を募集し研修を行っているほか「老いても安心して暮らせる支え合い学習会」の受託を受け実施する予定があるなど地域住民への認知症に関する啓発活動などにも積極的に関わっている。外出支援に力を入れる中で、暖かい時期には毎日午後から近くにある大型スーパーや公園、犬やウサギを飼われている近所のお宅までの散歩や買い物に出かけている。運営推進会議などを通じ、地域・行政・ホームの結びつきも更に深くなり、交流の機会も増えている。災害対策にも熱心に取り組み、避難訓練にも地域の方たちが参加されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では災害対策として、近隣の住民にも協力が得られる働きかけについてあげられていたが、今年度は避難訓練の際に住民の方たちに来ていただき意見交換ができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	自己評価には全員で取り組んでいる。自己評価や前回の外部評価の結果については共用空間の誰でもが手に取って見られる場所に置かれ、家族会も兼ねた運営推進会議でも報告され改善の機会として取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、関係する多くの方たちに参加をいただいて開催されている。主な議題については 避難訓練及び避難時に関する話し合いについて 近況報告 外部評価等について 家族から見た入居者の感想について
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月発行している「めぐみ野通信」及び重要事項説明書にはホームの苦情相談窓口を明確にしている。家族会を運営推進会議と一緒に開催することで多くのご家族に参加していただき、外部の方たちにも意見などが言いやすい環境作りをしている。また、面会時には気軽に話せる雰囲気づくりをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に加入している。地域の行事やイベントのチェックをし、可能なものには利用者と一緒に参加して交流している。ホームの行事にも多くの方たちに参加していただいている。中学生がボランティアとして参加してくれることもあり、外でも声をかけてくれるようになった。また、運営推進会議等を通じて更に地域の方たちとの関係が深まってきている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設当初にスタッフ全員が関わって事業所独自の理念を作り上げた。この中に地域との関わりを謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は会議、引き継ぎ、カンファレンス等様々な場面で理念を共有し、理念の具体化、実践に向けて日々取り組んでいる。理念を更に噛み砕いた表現にしたものを見やすい場所に貼り、全員で共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り、お祭り、老人会などに利用者と一緒に参加し交流しているほか、いただき物があつたときにご近所にお裾分けをしたり利用者と一緒に回覧板を渡しに行くなど日常的なかわりかかわりがもてるようにしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は約1か月をかけた職員全員で協力して記入しまとめている。また、自己評価や前回の外部評価結果についてはホーム内の会議で共有するほか、運営推進会議などで公表され、ホーム内の誰でもが手に取って見られる場所に置かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、老人会、婦人会、自治体の参加があり、様々な報告やホームの現状等をお伝えし皆さんのご意見をいただくことでボランティアの来訪が増えたり、地域活動への参加ができるようになってきている。また、災害時等のための連絡網もつくることのできた。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町は認知症対策や介護予防などに力を入れており、ホームにも積極的な働きかけがある。ホームでも「認知症サポーター養成研修」などへの協力を行い、今後も「老いても安心して暮らせる支え合い学習会」受託の予定があり、認知症の人を支える環境を共に高めている。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「めぐみ野通信」で利用者の日常の暮らしぶりや健康・認知の状態などがよくわかるような報告をする他、体調の変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。また、金銭管理についても毎月領収書と共に報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を運営推進会議と一緒に開催し、できるだけ多くのご家族に参加していただいてご意見を聞く機会を作ったり、来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んでいる。また、毎月の通信でも苦情相談窓口を明確にしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動等に備え、他のユニットのスタッフと利用者の関わりの機会を作っている。退職の場合には馴染みの職員からの声かけを多くするなどし、可能であれば新しい職員を退職の1か月ほど前から雇い、オリエンテーションから認知症に関する知識、記録やセンター方式の書き方などを教え、利用者に影響を与えないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員用の研修資料などが用意され採用時にはオリエンテーションの他、実地研修などが行われている。外部研修参加を積極的に奨励して会議で参加者からの報告を行ったり、持ち回りで職場内研修を行うなどの実施がされ職員を育てる取り組みがされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会や研修会等参加時に他事業所の職員との交流が行われる他、交換研修も行われている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ご家族の相談・見学後、ご本人にホームの見学に来ていただいて場の雰囲気に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。ご本人が入院していた時には入院先にうかがい面談を行ったが、管理者だけでなく全職員が自主的にお見舞いに行き、顔なじみになっていただけようようにした。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事をしながら、種の播き方、畝の切り方、剪定のしかたなど教えていただいたり、食事の用意をしながら調理のこつを教えてください感謝の言葉を伝えています。外出や行事では職員も利用者と一緒に楽しんでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話の中や表情、行動などから意向を汲み取り、外出・散歩・畑仕事などの希望を把握できるよう努めている。一対一の外出の機会も設け、コミュニケーションを図っている。把握が困難な場合にもセンター方式を活用するなどして本人本意に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の暮らしの中で本人の要望等を汲み取り、面会時にご家族の意見を聞いています。毎月の会議の中で本人の状況等についての情報交換をし、センター方式のEシートまでは担当職員が記入し、介護支援専門員の適切な監理の下に会議の中で職員全員の意見を取り入れ具体的な介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の記録は介護計画書に関する項目がわかるように記載されている。介護計画書に記載している個別の期間が終了する前に評価を行い、状態の変化に応じて見直しが行われている。また、退院後など状態変化があった場合には、期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携を行っている。また、町内で行われている地域食堂や介護予防活動に参加しているほか、一対一やグループでの外出の機会を設け、芝桜見学や阿寒湖の遊覧船乗船、のろっこ号乗車等への遠出や、お盆のお墓参りなど柔軟に支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している。往診に来ていただいている方もいる。また、今後近くの開業医に往診をしてもらえるよう検討を重ねている。医療連携も行われ、相談をしながら日常の健康管理や医療活用の支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合や終末期のあり方についてのアンケートを書きいただいている。ホームでは近隣の医院と協力し、相談できるようにするなど、体制づくりに努めている。終末期の支援の方針は職員間で共有している。		健康管理書を作り、医療をどこまで望まれるのかなどについて確かめることにしている。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応や言葉かけをしないように努めている。記録等の個人情報については、取り決めに基いて扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の希望を最大限尊重して、買い物や散歩、公園などへのドライブ、畑仕事などの外出や食事の準備、掃除の手伝いなど本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、希望も聞いて献立を決め、嫌いなもの・食べられないものがある方には別のものを用意している。職員と利用者が本人の希望や力量に応じて一緒に食事の準備や後片づけをしている。後片付け時等には本人が混乱をしないよう段取りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はある程度決まっているが利用者の希望やタイミングに合わせて対応している。年に一度は温泉に行くことを楽しみにしている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのご希望や力量、体調に合わせ、食事の準備や片づけ、新聞取り、犬のエサやり、ビニールハウスでの野菜の収穫、編み物、カラオケ、タオルたたみ、外食や買い物、ドライブなど様々な役割、楽しみごと、気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調、気分、希望に合わせて、午後からは日課として近所の公園に花を見に行ったり、外で飼っている犬や近所のウサギを見に行ったり、タバコやその他の買い物に行く、庭での外気浴など積極的に外出ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、センサーが設置されている。利用者の外出傾向は普段の行動などから察知され、職員間で共有されている。外出する時は、職員がさりげなくついていき安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、消防への通報訓練、消火訓練を行っている。避難訓練時には地域住民と意見交換もでき、地域の緊急連絡網を作ることができるよう検討している。スプリンクラーの設置も決まっている。		普段のかかわりの中で信頼関係を築き上げ、更にご近所の方たちの理解が深まるための取り組みを継続していくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方や体調によって食事摂取量や水分量が記録されている。栄養バランスにも配慮され、個人の好みも把握され食べられないものがある場合にはほかのものが提供されている。水分摂取が少ない方も好きなものを把握することで摂取量が増えてきている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や季節感が感じられる飾り、利用者と職員が一緒に作った壁飾りがかかっている。足踏みミシンや古い茶筍、囲碁・将棋盤も置かれ、居間のソファには利用者が編んだ毛糸の背カバーが掛けられるなど生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などが持ち込まれているほか、お孫さんの活躍が載っている新聞、入学式や結婚式の写真などが飾られ、居心地のよい空間となっている。仏壇を持ってきている方たちもいて、水・ご飯・御神酒・お菓子・果物などがあげられている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。